



第4回内川未来戦略会議 振り返り(2024.10.15)

内川未来戦略会議の命題: 今後、内川がどのようなエリアを目指すべきか、内川が持つ価値を共通認識できるようにしていく

第4回テーマ:「水産資源や水辺を活用した観光」

委員による主な提言

〈内川の漁業、水産資源が抱える課題〉

- 景観維持が難しくなりつつある
(船の大型化に伴い、係留地が内川の外へ)
- しろえび漁の観光船は赤字(運行者の手出し)
- 地元民が地元の魚を買えない
- 観光客がやることなく体験が足りていない
- すでにある魅力を「見える化」できてない

▼認知の仕組み、情報発信(誰に、どう見せていくか)

- 魚で人を呼び込む
 - ↳ 美味しいだけでなく、ストーリーが肝心
 - ↳ 幻の魚ではなく「富山湾産」「新湊産」がブランド
- 「ゆるい観光」で地元民も観光客も無理なく楽しむ

▼環境整備

- 小型屋台の貸し出し
- シェアキッチンの使用用途の制限緩和
- 停泊している漁船の補助

▼漁業とそれ以外との連携

- 周辺の飲食店で同じ魚種を使った料理の提供(定期的に旬を味わう)
- 内川周辺での鮮魚販売(定期的なマルシェ、飲食店やキッチンカー出店)
- 料理人と宿との連携(高付加&他付加価値、語り部、ガイド)

提言を踏まえた、委員による意見交換

意見交換の概要

内川の魅力は漁師町、漁業

- ・漁船が並ぶ風景に価値がある。漁師町の風情が魅力。
- ・今は景色でしか価値が伝わっておらず、歴史や文化を体験できる入り口が必要。
- ・漁業を観光資源に活用するなら持続可能な改善が必要。

「このままの内川が良い」と住民は思っている

- ・何もしなければ維持はできない。
- ・どのような場所を目指すのか、住民の意見のすり合わせが必要。
- ・等身大で内川の良さを表現する取り組みが、内川を守ることにつながる。

生活と観光のバランスを懸念

- ・内川は地元民の日常の生活空間。
- ・観光と生活は対立するのではなく、掛け算的な関係を築く必要がある。
- ・観光地化よりも地元の産業を盛り上げることが重要。

内川の価値を言語化、可視化できるのか？

- ・世代ごとに感じる内川の魅力は違う。
- ・魅力は風景や雰囲気などで伝わる部分があり、曖昧なところが大きい。
- ・価値をどう決めるか、この戦略会議で決める必要がある。

地域の未来は、どう描くのか？ ～内川未来戦略セッション～



観光や移住、水辺の利活用など様々な可能性を持つ射水市「内川エリア」。まちの魅力を活かして地域経済の好循環を生み出すためには、どのように未来を描き、どんな未来を目指すべきなのか？「内川未来戦略会議」メンバーによる公開会議を開催。

日時:2024年11月23日(土) 10:30～11:55

登壇者:牧田座長、高木副座長、明石委員、永谷委員

場所:クロスベイ新湊



【議論の内容抜粋】

- 内川の人口減少、空き家問題は深刻な課題
 - ここ10年でも失われていくものの多さを感じている
- 今は住民の善意で風景が保たれている
 - 何かしらの基準や景観条例を作った方がいい
- 住んでいる人が良質な時間を過ごせているが重要
 - 景観に力点を置くと住みづらくなってしまう
- 内川の景観＝建物ではなく、守るべきは情景ではないか
 - 住んでいる人がいないと成り立たない



移住や開業したいと考える人達を行政や地域はどう受け入れるべきなのか、
地域外の人達とどのように関係性を築いていくべきなのか議論。